

働き方改革

伊藤 豊

1 テーマについての考察

近年、教員の働き方改革が必要とされているが、なかなか進んでいないのが現状である。私は、教職に就いてから教員の働き方に日々、疑問を感じてきた。それは、教員養成セミナー7月号の記事に載せた「この環境にいたら大切な物が見えなくなる」と感じた理由の一つでもある。未だに多くの改善の余地があるにも関わらず、ほんの少しずつしか変わらない現状を歯がゆく感じている。

また、教員の不祥事が耐えないことや教員の数が不足していることが問題となっている現状がある。これらの問題は、働き方改革を行い、教員の負担やストレスを減らし、教員の職業のメリットや魅力を増やしていかないと改善していかないのではないかと考える。

今回は、八千代市の小学校での働き方改革の具体的なアイデアをいくつか提案したい。

2 主な課題

まず、7時間45分という勤務時間に対して、掃除等の雑務、学級的环境作り、各種事務仕事、学校の設備や備品の管理、会議、研修、戸締まり、校務分掌の業務、校外学習、行事の企画・運営、クラブ活動や委員会活動に関わる業務、学校ごとの教科の研究、教材研究、授業の準備・片付け、テストと評価、成績処理、保護者対応等、業務内容が多過ぎる。そして、業務の電子化が進んでいないこと等から、仕事の量、質共に課題がある。

「職場の空気」という観点では、また、学校という毎日変わらない狭い空間の中で多忙感と疲労感、ストレスを抱えながら仕事をする中で、自分と同じような多忙感、疲労感、ストレスを抱えている人と同調し、仕事が早い人や学級経営が順調な人、プライベートが充実している人へは嫉妬をすることで自身の心のバランスを保っている現場が多い。共通の敵を作り、職場いじめに発展している状況もある。また、時間外で仕事することが当たり前という考えが染みついてしまっている。「残業することが美德」のような考えも一部残っているようである。そのため、早く帰ったり、休暇を取ったりしづらい雰囲気がある。

自分が味わった大変さを年下の教員にも経験させようとする上司が多いことも課題である。通知表の所見の文章表現への過度な訂正があったり、先輩教員が年下教員を都合のいいように扱ったりといった現状がある。多くの教員が、大学を卒業した後、社会を経験せずに教員の世界に入る。知識や経験もないまま、多忙な職場環境に飲み込まれ、人としての心が貧しくなっていく傾向にある。

このような現状であると、有能な人材は一般企業に流れ、教員の質が下がるだけでなく、働き方改革を推進するような人材も入らず、働き方改革はどんどん先延ばしになってしまう。働き方改革として、まずは業務のスリム化、効率化が急務な状況である。

3 具体的な方策

【勤務時間内で教材研究，学級事務，校務分掌等の業務を行う時間の捻出】

- ・専科を増やすことで最低3科目の空き時間をつくる。
(例:高学年は音楽科，算数科，理科，外国語活動を，低・中学年は音楽科，図画工作科，外国語活動を専科とする。)
- ・学年内で一部教科担任制にする。
(得意な教科を指導することでストレス減，教材研究や授業準備の時間減，授業の質の向上。)
- ・SSS(スクールサポートスタッフ)を配置し，簡単な事務仕事等を任せる。
- ・校務分掌を細分化する。例えば，体育主任の業務を校内行事・校外行事・授業コーディネートの3種類に分けて3人が行う。授業コーディネートは，体育の研究校で学んだ教員を体育以外の研究校に配置するとよいと考える。

【業務の電子化，効率化】

- ・指導要録の電子データ化，出席簿，復命書等，ペーパーレス化。
(様々な利害関係があるようなので，近い将来の「押印なきペーパーレス化」実現は難しいかもしれないが，できることを見つけて進めていく。)
- ・校務システムを使いやすくする。
- ・効率のよい仕事の仕方の研修を行う。

【質の高いリーダーの育成】

- ・経験10年程で今後の教員人生の方向性の希望をとり，選んだコースごとに専門的な研修を中・長期的に行い，有能な管理職や主任等の人材の選別・育成を行う。
(健全な職場にするためには，上に立つ人間が，正しい雰囲気を作る必要がある。仕事ができ，人徳のある管理職は必須だと考える。今後，管理職の若年齢化は確実なため管理職の育成は特に重要である。)

4 今後の教育現場への提言

教育委員会に働き方改革課を設置し，本格的に働き方改革に取り組むべきだと考える。具体的には，教員の業務の負担を減らすための方策を考え，実現させる。効率よく仕事をするための研修を行う。教員の相談窓口となる。各学校へ働き方の助言を行う等，働きやすい職場づくりに尽力すること等が考えられる。

教員の職場環境を改善するだけでなく，保護者や子どもにとっての教育環境も良くしていくという観点をもって改革を進め，「八千代モデル」が構築できたらよいのではないかと。胸を張って次の世代に引き継げるような，よりよい教育現場を自分たちの手でつくっていききたい。